

データサイエンス講座

7月29日(月)、普通科3年生徒を対象に「データサイエンス講座」を実施しました。技術革新の進展など社会の変化に伴って新しい学問が誕生しており、文理融合型の学びとして注目されているのが「データサイエンス」です。

今回は講師として、ソフトウェア開発会社のシステムエンジニア酒井昭成氏(国立大学卒)をお招きしてお話をいただきました。



デジタル化やグローバル化の進展、環境への配慮など社会の変化に応じて、これまでの文系・理系といった枠組みには収まらない分野が注目されています。その一つが「データサイエンス」。こうした分野を学び、研究していくには、文系と理系の両方の知識が必要です。

データサイエンスは膨大なデータを収集・分析し、ビジネスにおいて新しい価値を創造する研究であり、情報処理能力や統計知識、人工知能を用いて集積したデータを解析し、さまざまな業界で導入されていることを生徒たちに説明していただきました。

講話の後半には、大学入学共通テスト「情報Ⅰ」対策として「論理的思考を紐解く「思考の設計図」ー知識のインプットから大学入学共通テスト第3問の攻略まで」と題して、具体的なアドバイスをいただきました。

受講した生徒からは「難しい内容であったが、これからの時代に必要な知識だとわかった。」

「データサイエンティストという職業に興味をもった。」

「よく調べて進学先を考えてみようと思った。」といった感想がありました。